

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 6月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271100541
法人名	株式会社 しんわ
事業所名	グループホーム しんわ
所在地	島根県八束郡東出雲町下意東761番地1 (電話) 0852-53-0547

評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成19年5月28日	評価確定日	平成19年6月28日

## 【情報提供票より】(19年 5月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 7 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 16.0 人	

### (2) 建物概要

建物構造	R. C 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有( 円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
または1日当たり		1,000 円		

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低 77 歳	最高	93 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院、高木歯科医院、松江生協病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くの小学校から下校する学童の声が聞こえ、その様子を利用者は笑顔で見送っている。ホームの立地条件も良く、地域との関わりを重視している。地域行事への参加や外出の機会も多い。利用者の楽しい会話や笑顔もあり、なごやかな雰囲気がかがえた。  
自己評価、外部評価を活用し、着実に改善につなげている。マンネリ化しないように、「よりよいケアをするための推進委員会」をつくり3つのテーマをあげ、各グループで話し合いを積み重ね、ケアの向上に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>訪問調査時にホーム長、管理者の他に事務や介護スタッフもなるべく多く同席一緒に話を聞き評価を改善に活かそうと前向きに取り組んでいる。ミーティングで評価結果の報告をし、改善計画シートを活用し、順次改善している。外部からの気づきを真摯に受け止め、ケアサービスの向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員がそれぞれ自己評価を行い、それを持ちより各ユニットで話し合っている。2階のテラスの改造など自己評価結果から既に改善に取り組んだ内容もある。ガイドブックも職員全員が購入してよりよいケアに向けて前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町職員、地域包括支援センター、公民館、自治会、家族などの参加を得ている。活動状況や事例報告などによりホームの理解が得られ、地域の催し物の情報も得られ交流が広がりつつある。家族にも地域の様子を知ってもらう機会になっている。町は地域福祉の充実に前向きに取り組んでおり、担当部署とも随時相談し連携をとっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪された時に近況報告に合わせて要望や苦情を聞くようにしている。年一回家族懇談会を開き、家族の率直な意見を聞き、改善できることは改善している。7月の家族懇談会では外部評価結果の報告を予定している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校、神社、JAなど近く玄関前の畑で近隣の人とのふれあいも多い。文化祭、盆踊り、祭り、清掃活動など地域の行事にも積極的に参加し、小学生、中学生の学習の場として受け入れもしている。JAや行きつけの美容院など地域の人との継続した交流もある。地域向けの広報紙発行は中断しているが、理念やホームの活動、地域交流の様子など掲載し、より理解を深めていくことが期待される。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなったことから、職員で話し合っ「地域の皆さまと交流しながら喜怒哀楽を共にし明るい雰囲気の生活を目指します」という地域とのかかわりを重視した理念に作りなおしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で話しあって理念を作り、ホーム内の各所に掲示している。利用者に喜ばれるホームでありたいと運営者、職員が一緒になって日々のケアにあたっている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校、神社に近く玄関前の畑で近隣の人とのふれあいも多い。登下校の様子を見るのを楽しみにしている利用者もある。文化祭、盆踊り、祭り、清掃活動など地域の行事にも参加し、小中学生の学習の場として受け入れもしている。JAや行きつけの美容院など地域の人と継続した交流もある。	○	地域向けの広報紙は中断しているが、ホームの理念、活動状況、地域交流の様子など掲載したものを年数回でも発行し、町内に掲示や回覧することでより理解を深めていくことが期待される
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、今回とも訪問調査のヒアリングにホーム長、管理者の他、事務、介護職員などなるべく多くの職員が同席し一緒に話を聞いている。前回の評価報告書を受け、報告会を開き評価結果を共有し、改善計画シートを活用し、順次改善している。今回の自己評価は全員で取り組み、既に改善した項目もある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、地域包括、地域関係者、家族などの参加により夜間に開催している。活動状況や事例の報告などを行っている。公民館や老人会、自治会など理解が得られ、地域行事への参加など交流が広がりつつある。家族にも地域の様子を知ってもらう機会になっている。	○	入居者の様子を見てもらう機会として、日中の開催や会議の参加メンバーの枠、会議のテーマなど今後も工夫をして、更に実効ある会議になるよう取り組みんでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスとなり役場の担当部署に随時相談をしている。連携や交流により共に地域福祉の充実に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時、近況を伝えている。健康状況の変化については電話で都度知らせている。写真をこまめに撮り、ホーム内に掲示したり広報紙に掲載して日頃の様子を知らせている。金銭については毎月報告し、来訪時には内容を確認してもらっている。	○	職員の異動や予定されている行事なども広報紙や掲示で知らせ来訪の少ない家族にも状況が伝わる工夫を試みてほしい。担当から健康状況や近況など簡単なお便りを添える試みしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に近況報告に合わせて要望や苦情を聞くようにしている。年一回家族懇談会を開き家族の率直な意見を聞き、改善できることは改善している。7月の家族懇談会では外部評価結果の報告も予定している。	○	家族懇談会を活用して、家族同士の話し合いの時間やアンケートなど意見を出しやすい方法を取り入れ、家族の意見をよりよい運営に反映させていくことが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係となるように職員の異動は極力少なくしており、職員の退職もほとんどない。夜勤専門職員もユニットに固定している。運営者であるホーム長は日勤して利用者、職員の日々の全体の把握をし管理者と連携をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に職員を派遣し、ミーティングでの報告、回覧で共有している。外部から講師を招いて事例による研修会を行い、ケアの見直しに生かしている。マンネリ化しないように職員個々が問題点を出し、テーマごとにグループで改善に取り組んでいる。	○	救急蘇生法講習へ参加し、伝達研修を行っているが、今後もホームの実務に関わる研修等へ参加を勧め、職員それぞれが一役・一芸を持つような取組みを続けてほしい。テーマごとにグループで改善に取り組んでいるので、その結果を実践にどのようにつなげるか大いに期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護事業者間でのケア会議や懇親会、など参加している。認知症研修の事業所実習による交流もある。県内の事業者による「小規模ケア連絡会」に加入しサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホーム見学をしてもらい、ホームでのケアについて本人や家族の希望を聞いている。また時には家族に宿泊してもらうなど段階を経ながらホームの生活に馴染んでもらっている。昨年の入退居は2名のみであった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「喜怒哀楽を共にし」という理念を日々のケアの中で実現しようとしている。農作業が得意だった利用者の指導で野菜作りをしている。支援する、されるの関係から、一緒に過ごすことで利用者から学ぶことも多く、利用者のできることや選択肢を広げる取組みをしている。利用者同士の気遣いや支えあいも見られた。	○	職員と利用者の関係が支えあうものになると同時に、単にトラブルの解消ではなく、利用者相互の関係の支援にも取り組んでほしい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で思いや意向を把握するようにしている。個人記録に「利用者の言動」「スタッフの対応」欄を設けわかりやすくしている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」などを使って本人の思いや行動の背景を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当がアセスメントを行い、カンファレンスで本人や家族の希望を入れた介護計画を作っている。本人に参加してもらうこともある。困難事例について外部の専門家を招いて事例検討を行いケアの見直しにつなげたケースもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前にモニタリングを行っている。定期的な見直しのほか入院など大きな変化時もカンファレンスを行い見直している。	○	介護計画期間は、個人の事情、入居開始等の時期や設定された課題目標内容により長短様々であり、見直しは数日、1週間若しくは1月以内に行う場合もある。一律に期間を定めなくて、日々の話し合いで随時見直し、その記録をするように工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し医療連携体制をとっており、健康管理や浴室の改善など入居者の状況にあわせた援助をしている。受診も家族の希望があればホームの車で送迎援助している。	○	開設後まもなく3年になるので共用型デイサービスや短期利用の課題の検討、隣接するデイサービスや居宅支援事業とのコンビネーションを生かした取組みも期待される。
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、入居時に話し合い、本人や家族の希望を尊重して、継続して受診できるようにしている。状況により付き添いや送迎の援助をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年5月、医療連携体制について説明し、個々の意向を聞いている。重度化した利用者については医療面を含めて家族とも話し合い、方針を確認している。	○	方針を確認している利用者についても状況の変化に応じ、家族の意向を聞いたり、ホームでできること、できないことなど話し合い家族と協力しながら取り組んでいってほしい。ホーム内での基本構想をつくり、関係機関との調整をすすめてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかに丁寧な言葉使いで接していた。夕方など忙しい時間帯に余裕がなく命令口調になることもあり業務見直しをしたりケア見直しのテーマに「言葉使い」をあげてよりよいケアに向けて取り組んでいる。家族向けの広報誌は写真が多いが掲載については承諾を得ている。	○	記録などの個人情報の取扱などについても、今一度具体的に点検してその整理をしてほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いを把握し、生活習慣や個々のペースを尊重している。体調やその日の気分、性格などに配慮し食事の席や入浴なども利用者の希望に沿うようにしている。毎日畑を見に行くことを楽しみにしている人、夫の遺影に毎日お茶を供える人など暮らしのリズムを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も聞いているが食材に合わせて臨機応変に対応している。利用者は調理、盛り付け、食後の片付けなどそれぞれ役割を持ち自然に組み立てていた。職員は介助や見守りをしながら一緒に食事を楽しんでいる。天気の良い日は中庭での食事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は決めず日々の希望に添っている。職員は実施記録で頻度を把握し間隔の開く人にはさりげなくすすめている。同性による介護にも配慮している。利用者が「夕食後は大儀だから・・・」と言われるので夜間の入浴は現在はおこなっていない。	○	夕食後の入浴は現在希望者がなく行っていないが、夕食後の過ごし方、安眠支援など含めて個別の状況に対応できるような体制作りを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めぐり、新聞取り、牛乳取りなど、個々に検討して支援している。体の動きが不自由になってきている利用者にはリハビリを取り入れ本人の喜びや意欲につなげている。小学生の登下校の姿を見るのを楽しみにしている人、家事の役割などそれぞれの活動や楽しみのプログラムがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや外食、買物など外出の支援をしている。玄関前の畑や中庭のウッドデッキなど外気に触れる機会になっている。2階の人は戸外に出る機会が少なくなりがちなので最近屋上に出入れるように改造している。近くのJAや行きつけの美容院など馴染みの人との交流の場となっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。出かけようとする場合は一緒に散歩をしている。玄関脇に事務室があり出入りを把握しやすい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者も参加して年2回避難訓練を実施している。消防署の協力もある。区長会や運営推進会議などで地域の協力を呼びかけている。救急蘇生法など緊急時の訓練は、研修を受けた職員が、ホーム内で2回にわけて実技伝達研修を行っている。	○	近隣や家族にも防災訓練を見学してもらい、理解協力をすすめてほしい。災害の種類にもよるがホームの設備や建物を利用して地域への可能な支援をすることも検討してほしい。屋上が改造されたので、一時避難場所としての活用も期待される。災害時の備品や備蓄の点検もしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を使いバランスに気をつけ、月1回栄養量を計算している。利用者に合わせた量の盛り付けをし、摂取量は日誌に記録し把握、共有している。糖尿食の人は量制限がストレスにならないような工夫もしている。水分摂取に努め、牛乳も1日に2～3回に分けて必要量を摂取できるようにし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を囲んだ設計となっており、穏やかな空間となっている。台所は居間に対面しており、利用者は自然に居間に集まり職員の姿が見えるところでソファやテーブルで過ごしている。浴室は車椅子の人を安全に介助できるよう改造している。トイレは各居室内にあるが、廊下へ出てトイレを探される利用者もあり居間のトイレも使用できるようにしている。	○	2階のテラスは見晴らしもよく、外気に触れる場所となったので利用者が心地よく、楽しく過ごせる共用空間として活用が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所とトイレが設備されている。家族が泊まれる空間もあり、来客用にも使える机と椅子が置いている人もある。使い慣れた鏡台やたんす、家族の写真など置き、その人らしい部屋にしている。家族になるべく馴染みのものを持ってきてもらうよう依頼している。1階は外への避難も出来るようにガラス戸にしてある。		